



相ノ木っ子だより

平成30年度
学校だより
3月号
上市町立相ノ木小学校

日本人の「当たり前」って？

保護者の皆様には、1年間本校の教育活動にご理解とご協力をいただきました。ありがとうございました。また、わたしが徒然なるままに書き綴る、この「相ノ木っ子だより」にもお付き合いいただき、感謝いたします。もっと子供たちの成長や変容について載せることができればよかったのですが、自分の思いが先行した便りとなってしまう、少々後悔しています。少しでも子供たちの支援の足しになっていたら幸いです。

さて、先月号でも少し触れたけん玉大会ですが、子供たちの技術、集中力がいかに発揮され、予想通り盛り上がった大会となりました。この大会のよさは、試技する者、応援する者が一体となることです。試技回数ぎりぎりでの技達成の場面では、追い込まれていた試技者の力強いガッツポーズが生まれ、応援者からは思わず大きな歓声が出ます。そんな熱いものを全員で共有できる大会は、なかなかないものです。また、「もしかめの部」にしろ、「技の部」にしろ、子供たちが当たり前のように回数を重ねたり、難しい技をクリアしたりすることに本当に驚かされます。すごいものです。

「当たり前」というワードが出てきたのですが、最近「日本人の当たり前」が気になっています。煽り運転、アルバイトによる不適切動画の投稿、児童虐待等が当たり前のようにつながっています。「倫理的に危ない、おかしいと考えないのだろうか」「怒りや快楽が勝ってしまうのだろうか」と、首をかしげるばかりです。これだけ報道されていても、一向になくならないですし、「そういったことが『日本人の当たり前』になったのだろうか」とさえ思ってしまう。心配なのは、これだけ映像として流れることで、よくないことと分かっている、子供たちに「そういう行為は普通なんだ」と頭の中に刷り込まれることです。

実際、近年の「日本人の当たり前」が多少変化してきています。便利すぎる世の中、サービス過剰の商法によるものなのか、日本人は「してもらうのが当たり前」「してあげるのは当たり前ではない」といった体質になってきている気がします。だから、してもらえなかった時にキレる、してあげたことに過剰に反応を求めるといったことが起きがちです。

「日本人の当たり前」はその逆ではなかったのでしょうか。してもらうことに感謝し、してあげることは当たり前。海外で称賛されるサッカーのサポーターが率先してスタンドをごみ拾いすることも、昔からの日本人のよさの表れです。「まいどはや」という方言に象徴される富山の県民性もその一つです。みんながそのことに立ち返ることができれば、上記のような問題は決して起こらないでしょう。

作家の辻仁成さんは、多くの人に愛され、信頼されて幸せな人生を築いていける人は、次の「五つの心」をもっている人だと言っています。

はいという素直な心

すみませんという反省の心

おかげさまでという謙虚な心

させていただきますという奉仕の心

ありがとうという感謝の心



子供たちのけん玉技術は、難しく、当たり前のことではありません。でも、それを当たり前のようになしている。これこそ、相ノ木っ子の美德であり、本来の「日本人の当たり前」を実践しているのではないのでしょうか。それにとどまらず、子供たちには、何が当たり前で、何が当たり前ではないのかを考え合い、「五つの心」を大事に生活してもらいたいです。

相ノ木っ子のみんな、「相ノ木っ子の当たり前」を素敵な「当たり前」にしていこう！



相手に楽しんでもらうためには・・・



「アンコール、アンコール、アンコール・・・」「セプテンバー」

5年生が中心となって企画し、先月末から行ってきた卒業を祝う週間。その締めくくりとして、今月の1日に卒業を祝う集会を行いました。もうすぐ卒業する6年生に、感謝とお祝いの気持ちを伝えようと、在校生が工夫し、練習を重ねてきました。1年生は、6年生と一緒に入場し、レイをかけてあげました。お祝いの出し物として、2年生のイントロクイズ、3年生の劇、4年生の〇×クイズがあり、どれも6年生の好きな歌、活躍した場面、思い出等を織り込んだものでした。また、5年生は、司会や運営、入退場の演奏にと大活躍でした。ちなみに、冒頭のやり取りは、6年生がお返しの「情熱大陸」の演奏後に起こった在校生のアンコールの声と、それに応えての2曲目「セプテンバー」のコールです。

在校生の感謝の気持ちと喜んでもらいたい気持ち、卒業生の祝ってもらってうれしい気持ちと誇らしげな気持ちが随所に見られた、とても素敵な集会でした。観ているわたしたちも、何だか笑顔になり、温かな気持ちで参加できました。なぜこんなにも心がほっこりするの考えたのですが、気付いたことがあります。それは、祝う側も祝ってもらう側も、相手に喜んでもらおうと一生懸命なだけでなく、自分のやっていることを楽しんでいたということです。お返しの「情熱大陸」「セプテンバー」では、6年生が体を使ってノリノリで、みんなを煽りながら楽しんで演奏し、在校生も演奏を心地よく聴きながら、大きな手拍子でリズムに乗っていました。出し物でも、同様の様子が見られ、進行者や演技者が反応を確かめながら楽しく行い、6年生も終始笑顔で参加していました。相手を本当に楽しませるためには、まず自分自身が楽しく取り組まなければいけないということを今回考えさせられました。そうすれば、互いの気持ちがしっかりとつながるんですね。

スリランカ出身の僧侶、アルボムッレ・スマナサーラは、「ブッダの幸福論」で次のように言っています。

学ぶときは、どうせ学ぶのなら楽しく学ぼうと、学ぶことから楽しみや喜びを得ようとしてみる。

仕事をするときは、どうしても仕事をしなければならいんだから、

仕事をしながら仕事の中から生きる楽しみ、喜びを得ようとしてみる。

社会と関わりをもつときにも、何とかしてその中から生きる楽しみ、喜びを得るようにしてみる。

そうやって、何があっても楽しみ、喜び、充実感、幸福感を得るようにしようと思ってしまうと、すべてストレスなく、失敗することなく人生がうまくいくのではないかと思います。

6年生さん、卒業おめでとう。皆さんが残してくれた「相手のために自分自身が楽しむ」という素敵な財産は、しっかりと在校生に受け継がれていますよ。6年間、ありがとう。

行事予定(3月中旬～4月中旬)

3月19日(火)	卒業証書授与式	4月4日(木)	第1学期始業式
20日(水)	地区児童会	5日(金)	入学式
21日(木)	春分の日	8日(月)	登校班結団式
22日(金)	修了式		交通安全パトロール隊対面式
25日(月)	学年末休業(～4/3(水))	9日(火)	1年交通安全教室
			学力調査(国語・理科)
		10日(水)	学力調査(算数・社会)

